様式第1（第15条関係）

会 議 録

|  |  |
| --- | --- |
| 会議の名称 | 令和5年度第4回和泉市福祉でまちづくり委員会 |
| 開催日時 | 令和6年3月28日（木曜日）午後1時30分から午後3時30分 |
| 開催場所 | 和泉市役所　別館3階3-1会議室 |
| 出席者  （敬称略） | 【委員】  桃山学院大学　名誉教授　石田　易司  龍谷大学　社会学部　講師　村田　智美  大阪経済法科大学　客員教授　金谷　一郎  和泉市校区社会福祉協議会　代表　堀田　敏一  校区社会福祉協議会ボランティア　代表　栗山　寿代  和泉ボランティア・市民活動センター  アイ・あいロビー運営委員会　運営委員長　芦田　三雄  シルバーサポートこうきた　代表　道浦　勁  いずみ障がい福祉サービス事業所団体連合会　理事　柳　望  すいせん保育園　園長　合田　耕三  市民公募委員　岡﨑　豊  市民公募委員　大塚　眞知子 |
| 議案等 | 「第５次和泉市地域福祉基本・活動計画（案）の承認について」 |
| 会議録の  作成方法 | □全文記録  ■要点記録 |
| 記録内容の  確認方法 | ■会議の議長の確認を得ている  □出席した構成員全員の確認を得ている  □その他（　　　　　 ） |
| 審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等） | |
| 事務局  石田委員長  事務局  石田委員長  委員全員  石田委員長  事務局  石田委員長  村田副委員長  事務局  石田委員長  事務局  石田委員長  事務局  芦田委員  事務局  石田委員長  事務局（市社協）  石田委員長  道浦委員  事務局（市社協）  石田委員長  道浦委員  石田委員長  金谷委員  石田委員長  岡﨑委員  事務局（市社協）  芦田委員  石田委員長  事務局  芦田委員  石田委員長  芦田委員  岡﨑委員  事務局  岡﨑委員  事務局  石田委員長  事務局  石田委員長  道浦委員  石田委員長  事務局（市社協）  石田委員長  岡﨑委員  事務局（市社協）  岡﨑委員  事務局（市社協）  石田委員長  岡﨑委員  事務局（市社協）  金谷委員  石田委員長  事務局（副市長） | 本日出席の委員は、13名のうち11名ご出席いただいておりますので、和泉市福祉でまちづくり委員会規則第７条第2号に基づき、本委員会は成立していることを報告いたします。  まず報告として、第３回福祉でまちづくり委員会の振り返りについて、事務局の方からお願いします。  【資料に沿って説明】  【資料１】令和５年度第３回和泉市福祉でまちづくり委員会　振り返り資料  皆様方からのご意見はありますでしょうか。  （意見なし）  特にないようですので、先に進めさせていただきたいと思います。  住民の方への意見募集をしたところ、沢山の方に地域福祉に興味・関心を持っていただいているとのことですので、説明をよろしくお願い致します。  【資料に沿って説明】  【資料２】第５次和泉市地域福祉基本・活動計画　意見募集結果  今のご説明でお気づきのことがありましたら、言っていただければと思いますが、いかがでしょうか。    事務局の方に質問があります。今年度は例年に比べ、沢山のご意見が寄せられたのではないかと思いますが、可能な範囲で、何人ぐらいの方からご意見があったのか具体的に教えていただけたらと思います。  全体的には、前回第４次計画を作成させていただいたときも、他の計画と比較して多く意見が寄せられたように思っております。ただ、今回につきましては、個人の方であるとか、人権関係の記述が少し薄いとか、関係団体の方からのご意見をいただくことが多かったと思っております。全体的な件数は17件、個人の意見が13名の方から、団体が4団体でございました。  たくさんの方からご意見いただいたということで、私もとてもいいことだと思います。今日の議題の２つ目になりますけれども、計画案についてご説明いただこうと思いますが、基本計画と活動計画は分かれて記載されていますか。  明確にここからが基本計画、ここからが活動計画と仕分けたわけではありませんが、第4章の方で具体的な取り組みについて書いており、市社協や校区でやっていただくことが活動計画に該当すると思います。市と市社協の取り組みが一体的になっていると解釈していただければと思います。ただ校区別アクションプランは明確に活動計画の部分だと思います。  一体化した方が市民にとっては、市の範疇のものか市社協の範疇か、縄張りの様にならず、わかりやすいので一体化したわけですね。その続きからご説明よろしくお願いします。  【資料に沿って説明】  【資料３】第５次和泉市地域福祉基本・活動計画（案）  担い手養成講座は誰が主体でしょうか。  社協や会社などの協賛で実施するものだということですね。今日お配りした追加資料にある①地域福祉活動の負担感の軽減について、成果目標が「社協とともに活動するボランティア数」で、現状値を維持するような5ヶ年目標でしたので、それでいいのかという意見が、昨日の地域福祉推進協議会でいただきましたので、修正をさせていただいております。加えて、追加資料の49ページをご覧ください。①環境意識の高揚にかかる啓発について、成果目標が前年比5%と書いてあったので5%「増」と修正しました。他も書き方の統一を図るようご意見いただきましたので修正をさせていただきました。147ページですが、この地域福祉基本・活動計画に包含した成年後見制度の計画の部分でありまして、本人を中心としたイメージ図なのですが、「市町村部局」と書いてあったので、（イメージ図下部の「市社会福祉協議会」の表記と）揃っていないため、「市部局」に修正をさせていただけたらとお示ししております。  はい、ありがとうございます。ボランティアを増やしていくというのは、公募だけで全てのことが解決できるものではないと認識しています。例えば有償ボランティアの制度を取り入れるなど色々な方法がありますので、意識しておくようにということでした。52ページの②「自助、共助、公助」の連携の業績目標で、令和6年、7年、8年で広報誌やホームページなど主力発信メディアを増やしていきながら成果をより高めていこうということで、中でもホームページが先の方がいいのではないかという意見が出てきたのですが、ホームページよりも広報誌の方が見られている数が圧倒的に多いという事実があるので、それを根拠にしているという形になります。ただ調べるとなった際に、広報誌は配布されたときには見ますが、必要な情報を見るときはホームページの方がいいだろうという意見がありました。1年に1個ずつする必要はないので、工夫しながらできるだけたくさんの人の目に触れるような努力をしてほしいという意見もありました。  【市社協の取り組みについての説明】  【資料３】第５次和泉市地域福祉基本・活動計画（案）  今の成果目標・業績目標の説明についてご意見ございますか。  業績目標と成果目標が書かれて、非常にわかりやすくなったと思いますが、成果目標の数値が年度ごとに上がっているのは、何か根拠を持って挙げているのですか。    私どもとしても、地域福祉の活動の場が広がっていくことが理想でありますが、現状のまま活動を進めても広がることはないと考えております。例えば新たなボランティアの担い手を広げ、若い世代の方や学生さんなど、少しずつでも活動に参加できるような場づくりに取り組みたいと思っております。その点についても計画を作って進めていきたいと思っております。  具体的な裏付け、例えば社協として経費のバックアップをちゃんとできる形になっているかどうかなど、まだそんな話はできてないというところですか。  そうならざるを得ない実情だと思います。新築で家を購入する際のように、ある程度計画立てて、根拠を持った形にしないといけないと思いますが、1年で進めるのは難しいのも分かります。  毎年この計画は見直すことを前提にしてやるということですので、今おっしゃったようなことは、根拠のある形にしていかないといけない。今日の時点では計画を今年度中に仕上げるということだったので、とりあえずこうなったらいいなという目標になっていると思いますが、来年見直すときには、根拠があるからこれだけやるということをきっちりと示せるようにしていただけたら嬉しいです。今全部示すことは難しいと思いますので、その辺りは皆さんにもご了解ください。  あくまでも現状でいかに改革するか、いかに改善するか、工夫するかというのが問われている時代ですし、色々と事情はあると思いますがあくまでも市民との約束をしたことになりますので、安直に作りましたということではなく、できる範囲だと思っていますという答えが正しいと思っています。  他にはいかがでしょうか。    ここでもう一つ次のステップとして、アクションがどうなるかいうことが一番大事なことになると思います。協議の場では各自治会長さん、町会長さんも参加し、そこで各自治会の方がアクションをするという動きになれば、一つ広がりが増えると思います。自治体の方は本来、自治会活動と社協の活動を一つにして行動するアクションをするということが一番必要だと思います。そのアクションのつけ方は社協さんが中心になって、各自治会へ伝えていき、そして自治会でも受け手としてアクションを起こせるようにすることで、ボランティアの人数が増えるのではないですか。要はアクションが社協のラインだけでは少し限界があると感じますので、自治会にいかに下ろすか、協議の場にするか。いかに現在の自治会を有効に使うかが、このアクションを進めるのに必要ではないかと思います。  岡﨑委員からご意見いただいたように、町会・自治会とどう結ぶのかというところが鍵ということと、自治会に入っていない方たちが校区の福祉活動に目を向けることが、第5次計画の肝だと思っております。アクションプランをどう生かしていくかは、町会・自治会の方にも、また町会長会議にも出向かせてもらってお願いをしていきたいと思います。  質問なのですが、25ページにあるケーキモデルの件で、共助を支える共助とか、自助・共助を支える公助がなかったのか。  自助・共助を支える公助も含めた表現になっています。  共助を支える公助と、自助を支える公助は書かずに全てをひっくるめて公助という表現をさせていただいています。それを補足するために下段の説明書きのところで、一番下の公助は自助だけでなくこれらの共助の仕組み、いわゆる共助を支える共助・公助、そうした部分を含めて、様々な施策によって支えていますということを載せさせていただいております。  私達は校区で様々な活動しますが、それを公のところで応援してくれることが今回新たに入ったと理解しています。そうではないでしょうか。  そうですよ。すべて入っていますよ。安心してください。  実際の校区の活動は、どんどん小さな単位に降りてきていまして、従来校区でやっていたことが、今は自治会の方のところに降りてきていて、小さな単位での関わり方が大事になってきました。校区全体の活動ではなく、もう少し小さな単位で、それだったら私が一緒に助けてあげるわ、そこへ行ってあげるわと言ってくださるボランティアを増やし、上からではなく下からぐっとうまく動くような仕組みに意識を持って関わっていくと良いのではないかと思います。方法論を工夫してほしいですね。  ケーキモデルの図で、例えば町会と自治会はどこに入りますでしょうか。  「市民一人ひとり」とある下段の、共助（地域）の部分に町会・自治会や校区などが入るものと考えております。  地域の部分に自治会など具体的な紹介を入れてはどうでしょうか。  そうなると圏域の整理の話が出てくるので、この案でさせていただきたく思います。  ついでにケーキモデルで言えば、自助、共助、公助を説明するということですので、自助という言葉を入れておいた方がいいと思います。  市民一人ひとりの所に自助と書かせていただきます。  もう一つは、支え合うというより支えてもらっている表現しか見えないので、支え合う形になるような絵で表現できないでしょうか。次年度でいいです。  自治体が絡むというのは、行政のやっていたものが自治会を通じて色々と降りて対応しているとは思うのですが、現場で実務的にも自治会としてやるという表現がないと、有志のボランティアは何人集まったとしても少し数が小さいものと感じます。芦田委員の言うように小さい単位になってきているように思います。地域で困っていることは地域の交流などの小規模での集まりの方が発言しやすいとも思うのです。この冊子の活用はこれからだと思いますので、私もうまく活用したいと思います。  地域のところに「自治会など」と入れてもらった方が、より頑張らなければという気持ちになってもらえると思います。それでは、続きの説明をお願いします。  【校区別アクションプランについて説明】  【資料３】第５次和泉市地域福祉基本・活動計画（案）  進行状況も具体的でよく分かりますし、一緒になってできるようにしていただいたらと思います。何かご意見ありますでしょうか。  一点だけ質問です。自主防災の話出ておりましたが、自主防災はどこでつくるのでしょうか。  市に登録されている自主防災は、自治会単位でつくられていたり、校区単位でつくられていたりします。校区での要望があれば、市社協が応援することもできると思います。基本的には、校区社協で防災について取り組んでいきたいので、今回の校区別アクションプランで、すべての校区の中に防災の取り組みが書いてあります。  その辺りが、自治会の方もできている話でしょうか。  防災のことをしっかりと話し合いたいという校区では、消防団や自主防災組織の方にも協議の場に参加していただいて、一緒に第5次のアクションプランを考えていただき、主体的に自主防災もこの中の取り組みに入れましょうとなっています。  岡﨑委員の懸念として、自治会と校区社協の担い手とエリアが一致していないという、そうしたところでしょうか。  防災の立ち上げをしようとして検討していますが、出来上がっていない状況です。本当に作るのであれば協力して作るべきですが、要望はいろいろあっても1年1年遅れていく、同じことの繰り返しになってしまいます。  それは社協と自治会とが手を結ぶところなので、私達も校区の皆さんが自主防災組織を立ち上げており、防災について考えていきたいとの意見が強い場合は、一緒に話し合いながら協力させていただきたいと思っております。  防災については、各市には地域防災計画と別の基本計画があるので、私達は縦割りの話はしません。基本的にはその計画があるので、この地域福祉計画等の計画の方に書き込むのがなかなか難しいです。各地域で自治会主導でも、社協が中心でも地域の特性に応じてやればいいだけです。ここに書き込みすぎると全てこっちでやりなさい、校区社協でやりなさいとなってしまうので、各地域事情で動かす方が良いのではないかと思います。避難行動要支援者の支援に関しては福祉的な課題があるので、共助を支える公助、共助を支える共助としての位置づけにあると思います。    様々な組織が一緒にできるような支援を、社協や市役所に何かしていただくことが大事だと思います。とりあえず今年についてはこちらの方で進めさせてもらいますが、継続的にこのテーマを検討できるようにできればと思います。だから印刷物はたくさん刷らないで、インターネットやホームページで市民に公表して実施していきたいと思います。そのことをご理解いただいて、これで終わりになることなく継続的にお考えいただけたらとても嬉しいと思います。この計画が公表されるということについては、皆さんのご了解いただいたということで、事務局の方にお願いしたいと思います。  最後に本日の総括をさせていただくことをもちまして、御礼の挨拶とさせていただきたいと存じます。委員の皆様方から、これは市民との約束だからという言葉を頂戴いたしました。今までは次回の会議のときに、今日出た課題についてお答えするという形にしていましたが、今回これが計画を発出する最終ということになりますので、市民との約束を出すうえで、条件的なことも含めて、私の方からしっかりと説明をして、本日の会議の締めをさせていただければと思っております。  まず、昨日の地域福祉推進協議会では人権について言及がありました。人権施策全体については、和泉市人権教育啓発推進計画というのがあるので、その取り扱いの中でやっていきますということをお話いたしました。本日防災についてのご意見も賜りましたが、地域防災計画がございますので、その中で取り扱っていくということになりますので、ご了承いただきたいと思います。  ここからは、資料4、資料5のPDCAに関わるシートについて説明がありましたが、本編105頁に示されているPDCAサイクルで使われる校区社協アクションプラン分のツールであると受け止めております。また他の部分でも市が行うツールが出揃っておりませんので、次年度以降に進捗管理の具体論の中で、改めてこのツールについては議論をさせていただきたいと存じております。  次に、会長から話がありましたように、この協議会での議論を通じて毎年計画を修正していきたいと考えております。今回議論しきれなかった今後議論しなければならないことについても、この計画に明記しております。いつまでにそういう検討をやるかということも明記しておりますので、本計画が決定次第、早速修正に係る事務も開始したいと考えておりますので、引き続きご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。  次に50ページにある、基本計画中心のマネジメントをやるということを謳わせていただいております。今回挙げた指標や数値目標、これで今後管理するというだけに留まることなく、ご意見ありましたように事業目的に基づく目標設定になっているかということも含めて毎年見直して、その見直したものをもって進捗管理をしていくということにさせていただきたいと考えております。同じく進捗管理の観点からも、自助、共助の取り組みが、見方によってはこれしかやらないというように見える訳でございます。行政においてまず何が課題なのかということをしっかり設定をしてお示しをして、それを解決するために自助、共助にしても、どうしてもその解決ができない場合は、それは行政の責任として公助でしっかりやっていかなければならないと考えております。市社協とも十分に連携を取り、行政の役割、それから民間の役割分担についても議論していきたいと思っております。  また、自助、共助を支える公助が何処に行ったのかという話がありまして、私達のお答えとしては、もうこの公助の部分に纏めて記載していますということですが、やはり芦田委員おっしゃるように、自助を支える共助、共助を支える公助について1年間かけてしっかりと議論をしてきた経緯がございますので、「自助、共助を支える公助」という言葉は何処かには入れたいと考えております。そして町会などの地域の地縁団体をどこにいれるのかというお話もございました。  53頁をご覧いただきたいのですが、圏域の議論をやっていくと、これからということを明記いたしております。つまり、圏域の一言で纏めておりますが、活動の単位、これをしっかり議論していかなきゃいけないと考えております。町会やそれよりもさらに小さい活動での単位、もう少し大きな中学校区、包括圏域の単位などもあるべきというご意見いただきました。  協議の場の活性化についても、具体的にどうするのかというご意見もいただきましたが、先日、議会を通過いたしました来年度の予算の中にある、協議の場をさらに活性化するためのコーディネーター事業をテコ入れするという施策を講じて参ります。その他にも、この協議の場がもし中々おぼつかない様であれば、行政としてもしっかりと協議の場を立ち上げていくお手伝いをする更なる施策を考えていきますので、是非、委員の皆様方にもご指導を賜りたいと考えております。  このケーキモデルについても、支える、支えられる関係だけでなく、お互いに支え合うのではというご意見がありまして、私も全くその通りだと思います。当初用意していた図が地域共生の図で、お互い支え合うという図だったのですが、和泉市の実態として、自助・共助・公助の連携というところから始めないと、少し時期尚早感がありまして、地域共生の一歩手前の自助共助公助の向上をお示しし、今はご理解いただける段階ではないかと判断をして、地域共生の図ではなくこのケーキモデルにしたという経緯がございますので、これについてもよろしくご理解賜りたいと思います。  次に福祉教育の提言もございました、市長は今年度から新たに福祉と教育との連携という旗を掲げました。47頁のところに明記している通り、来年度の予算についても、教育現場を支える予算組みをして、具体的に福祉と教育の勉強を進めていきますが、同時に来年度1年間議論をして、その他にもプラスアルファの教育現場を支える福祉的な施策があるという前提で議論して参ります。その中には先ほどご提言いただきました、学校における子どもたちに対する福祉教育も含まれていると考えておりますので、福祉教育も含めて、令和7年度以降に教育と福祉の連携をどうするかということをしっかり議論していきたいと思っております。計画づくりだけでは現場は何も変わらないので、これからは計画の実施に軸足を移し同時並行的に計画の修正に着手していきますので、引き続きよろしくご指導のほどお願いを申し上げます。  最後に、ケーキモデルの話に戻りますが、自助より公助の方が段階的に大きくなってしまうとのご意見もいただいておりますが、これはやはり図にするのは非常に難しくてこうなってしまいます。会長からもお話ありましたように、一人の人を支える概念を図に示したもので、どうしても一番上が一人になるので、公助が大きくなっていくのですが、実際にはこの「一人ひとり」が18万人いるわけでありまして、一番少ないのがこの公助のところだと思うのです。それをうまく描けないのですが、そういう考え方だということでご理解をいただきたいと思います。18万人の市民の地域福祉を支える上で、ここに市民代表の皆様方にお集まりをいただいて、これからの和泉市の地域福祉の方向性について、ご議論をいただいていると理解いたしております。皆様方のご議論を誇りに思うのと同時に、共にそういう気概を持って、これからの和泉市の地域福祉をともに考えていきたい、地域福祉を進めていきたいと思っておりますので、是非今後も皆様方のご支援ご指導を賜りますように、最後にお願いを申し上げまして、私からの御礼のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。 |